

アザジエナミン骨格を主鎖に有する高分子化合物の合成

1210236 中林 真宏

Synthesis of polymer that have Azadienamine skeleton on the main chain

Mahiro Nakabayashi

アザジエナミンは、モノアニオン性二座配位子として働き多様な金属錯体を形成する。窒素原子間を芳香環で連結すれば、 π 電子系が拡張された刺激応答性高分子化合物の構築が可能になると考えられる。

β -ホルミル- β -ニトロエナミンに *o*-フェニレンジアミンを作用させたところ、赤色固体の析出が観察された。しかしながら、溶媒への溶解性が極めて低く解析が困難であった。そこでベンゼン環を修飾することにより溶解性の向上を図った。基質であるジアミンに対して Friedel-Crafts 反応や菌頭カップリングによる長鎖アルキル基の導入を試みたが、隣接する 2 つのアミノ基の影響で良好な結果は得られなかった。一方、ヨード基を有するアザジエナミンを用いて鈴木-宮浦カップリングを行うことが効果的であり、高分子化合物を得ることに成功した。

